

# ひと

## モットーは「公開」

京都で住宅事業を手掛ける  
ゼロ・コーポレーション社長 金城一守さん

公開——京都の住宅

メーカー「ゼロ・コーポレーション」が貫く理念だ。建築現場や建築工程の積極的な公開はもちろん、クレーム内容や会社の細かな業績までオープンにしている。役員報酬などについても、同社のホームページ上で誰でも閲覧可能。「隠していたって何の得にもならない」

と豪快に笑い飛ばす。

「公開」を意識し始めたのは6年ほど前。施工した物件に対する雨漏りクレームが、想像以上に多いと気付いたことがきっかけだった。社長の耳に届かないうちに、すべて現場レベルの対応で済ませていたツケが回っていた。長年染み付いた意識を委ねるための、ドラ

スティックな改革——それが、すべてをオープンにする「公開」の取り組みだった。

様々なことを世間に公表していく中で、社員の仕事に対する取り組み姿勢が少しずつはあるが着実に変化していった。

「人に見られる意識があれば、緊張感のなか自然にしっかりとした仕事をしようと思ってる」

この積み重ねが、他社との差別化として『品質』を堂々とつたえる今の体制を形作った。昨今の不動産不況で様々な会社が業績不振にあえぐなか、今期（09年3月期）の経常利益は前期を16・1％上回る10億9400万円

の予想だ。「社員が自分たちの商品（建物）に、本当の意味で自信を持っていること」が、以前と比べて最も変わったことだと実感している。

心にもいつでも留めている言葉は『一番の敵は自分』。「すぐに甘えてしまつ」と笑うその性格を律するためにも、公開の取り組みは効力があつたと感じている。ただ、「人が評価しなくとも、これが正しいと思えば信念を曲げず、そのように行動すべき時が必ずある。たとえバカにされようが」と何気なく発する言葉からは、甘さなど微塵も感じられない。

（福島 康二）

